

未成年の子どもをもつがん患者・家族に必要な支援の後方視的検討

【研究意義・目的】

日本人のがんの生涯罹患率は男性約 56%、女性約 43%と高く、年齢とともに罹患率は上昇しています。それに伴い、未成年の子どもを持つがん患者さんの数も増加している傾向にあります。

2012 年より国立がん研究センター中央病院緩和ケアチームでは、0～18 歳の子どもをもつがん患者さん及び家族に対して親と子の間に生じている心配事や不安の緩和を目的とした活動を行っています。

今回、その活動内容を考察し、必要な支援は何かを明らかにしていきます。

【対象・方法】

2013 年 4 月 1 日～2015 年 9 月 30 日までに国立がん研究センター中央病院緩和ケアチームで支援した 0～18 歳の子どもをもつがん患者さんとその家族(131 件)を対象とし、対象者の年齢、性別、疾患、病期、相談内容、支援内容、家族の（子どもを含む）年齢について診療録（電子カルテ）を後方視的に調査及び考察を行います。

【個人情報保護に関する配慮】

閲覧する診療記録には個人情報が含まれますが、患者さん個人が特定されないやり方で情報を収集します。収集した情報は当院で責任をもって特定の個人を識別することが出来ないように連結可能匿名化を行い、厳重に管理しますので、個人情報が公表されることはありません。回収したデータの管理は施設内にある施錠された当該研究者の保管庫に管理し、2018 年 3 月にシュレッダー等で再現性の不可能な状態で廃棄します。診療録等のデータを使用されたくない場合は下記にご案内ください。

問い合わせ・苦情等の相談窓口：

〒104-0045 東京都中央区築地 5-1-1 国立研究開発法人
国立がん研究センター中央病院 看護部 緩和医療科

緩和ケアチーム専従看護師 高田博美（研究責任者）

電話：03-3542-2511（内線：2341）